

IV 高松市ビジネスプランアイディアソン

2/27（土）13:00 ～ 16:30（自由参加）

本講座全体を通じて学んだことを活かし、ソーシャルアントレプレナーとしての可能性について、受講者がグループまたはペアでディスカッションをし、プレゼンをする場「ビジネスプランアイディアソン」を実施します。ゲストとして、ベンチャーキャピタルからゲスト講師を、また、高松市内で活躍する経済人やソーシャルビジネスの実践者をお招きし、プレゼンに対する助言をもらうマッチングの場とします。

なお、この「アイディアソン」は、クリエイティブ・ポート高松主催「プレイヤーズプラットフォーム会議」として開催し、他の会議参加者からもフィードバックをいただく予定です。

ゲスト講師



鈴木 英樹 株式会社ツクリエ 代表取締役

《略歴》 商社、コンサル会社を経て、2002 年大阪市の起業支援施設に勤務、以後インキュベーション業務に係る。2006 年テクノロジーシードインキュベーション（株）(TSI) 入社、2009 年 TSI 取締役、2015 年（株）ツクリエ設立、代表取締役就任（現任）。ファンド運営、投資育成、起業施設運営を多数手がけるとともに、自らもベンチャー立ち上げと経営を複数経験。

コメンテーター



永富 太一 香川大学 産学連携・知的財産センター長、教授、起業部顧問

《略歴》 1979 年生まれ、福岡県北九州市出身。2008 年香川大学に産学連携の専任教員として着任。学内外との共同研究や特色ある事業化プロジェクトを立ち上げる過程で、学生自身が専門の知識や技能で将来起業したいとの相談をきっかけに香川大学起業部を設立。学生の自発的な意思を尊重し、小さな失敗を数多く経験した先に得られる成功体験の積み重ねで自己肯定感を高めるアプローチで学生ベンチャーの支援を行っている。



真鍋 康正 ことでんグループ代表

《略歴》 1976 年香川県高松市生まれ。一橋大学経済学部卒業後、経営コンサルティング会社、投資会社等を経て 2009 年帰郷。経営破綻後のことでんグループの再生に従事する。現在、高松琴平電気鉄道、ことでんバス等ことでんグループ各社の代表取締役。並行して若手経営者育成に取り組み、Zip Infrastructure、電脳交通、建口ボテック、Xtreme-D 等のスタートアップ企業の取締役を務める。



三井 文博 特定非営利活動法人アーキペラゴ 代表理事

《略歴》 広告会社 ADK 四国支社を経て、2009 年より NPO アーキペラゴ代表理事。全国で初めての芸術士派遣事業を高松市、坂出市、丸亀市などで実施、さぬきマルシェ運営事務局、瀬戸内クリーンアップ、放課後児童クラブ、SDGs ツアー企画を運営。地域再生大賞、日本財団賞、香川県文化芸術選奨。

用語解説



ソーシャルアントレプレナー

Social entrepreneur. 社会起業家。起業家の中でも、社会問題や社会課題をビジネスによって解決する人のことを指す。



社会包摂／ソーシャルインクルージョン

「様々な個性を持つ全ての人々を、その多様性を含めて個性として、孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合う」という理念。



ローカル・ベンチャー

地方の地域資源を活用し、新たな価値を提供する新規事業を立ち上げ、様々な地域課題の解決と持続可能な地域社会づくりのために起業したベンチャー企業を指す言葉。



コミュニティ・ビジネス

地域（コミュニティ）が抱える課題を、地域資源を活かしながらビジネス的な手法によって解決しようとする事業のこと。

お申し込み

定員 **50 名**

受講料 **無料**

申込締切

2026 年 10 月 30 日（金）

受講条件

可能な限り、全ての講義を受講する意欲がある方

※応募者多数の場合は受講理由による審査有。11/4（水）までに受講証をメールにて送付します。

E-mail でのお申し込み

下記の必要事項をご記入のうえ、メールにてお申し込みください。

- お名前
- 電話番号
- 年齢
- メールアドレス
- ご所属（団体）
- 受講理由（200文字程度）

送付先 **artscouncil@sunport-hall.jp**

申し込みフォームでのお申し込み

下記 QR コードから必要事項をご入力ください。



ACCESS

高松市瓦町アートステーション 多目的スタジオ

高松市常磐町一丁目 3 番地 1
ことでん瓦町駅直結／瓦町 FLAG 8F
TEL 087-863-2888



お問い合わせ



クリエイティブ・ポート高松
（担当：杉浦、宇田）

〒760-0019 高松市サンポート 2 番 1 号
サンポートホール管理事務室内



TEL 087-825-5053



FAX 087-825-5040



E-mail artscouncil@sunport-hall.jp

主催：高松市 **TKMT高松** （公財）高松市文化芸術財団 **CREATIVE PORT TAKAMATSU**

後援：香川大学 **香川大学**

令和8年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業 **文化庁**

続ける、稼ぐ、貢献する

文化芸術を活用した ソーシャル アントレプレナー 育成講座

文化芸術の力で、地域の未来をつくる人を育てる。

この講座は、文化芸術活動を単なる鑑賞や表現活動に留めず、地域社会の課題解決を伴う新たな事業創出につなげ、雇用の場を広げていくことのできる人材（＝ソーシャルアントレプレナー）の育成を目指します。

受講生は、アーツマネジメントの基礎に加え、文化芸術の各分野における実践例、及び文化芸術に関連する分野—観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業など—と連携した内容について学ぶことができます。

公益性と収益性が両立し、事業化に成功しているビジネスモデルを学ぶことができます。

全国各地から多彩なゲスト講師を招く本講座は、公益性と収益性が両立し、事業化に成功しているビジネスモデルについて直接聴講できる貴重な機会です。高松・四国地域で活躍したい若い方々をはじめ、皆さまのご参加をお待ちしています。

こんな方におすすめ



文化芸術活動で
地域社会の課題解決に
貢献したい方



社会に貢献する
起業をしたい方、
仕事にしたい方



地域に残って
地域に貢献する起業を
したい方、仕事にしたい方



文化芸術活動を
持続可能にしたい方



ソーシャルビジネスを
志す仲間を作りたい方

クリエイティブ・ポート高松とは

2025 年 4 月に高松市が設置した地域アーツカウンシルです。文化芸術の専門人材が、市民や文化芸術団体への相談・助言、活動支援、調査、人材育成、情報発信などを行う「支援組織」として、文化芸術と地域・まちづくりをつなぐ役割を担っています。主な取り組みとして、高松プレイヤーズプラットフォーム会議の企画・運営、高松市文化芸術活動支援事業の相談窓口、文化芸術関係者・団体のネットワークづくりなどを行い、高松の文化芸術活動が継続・発展していくための環境づくりを進めています。



文化芸術を活用した ソーシャルアントレプレナー育成講座

PROGRAM 01-03

アーツマネジメントの基礎

文化芸術の企画・実施の基礎的な知識を理解するため、アーツマネジメントの基礎講座を開催します。初めてアーツマネジメントを学ぶ方にもわかりやすい内容です。
※01-03の講座は受講必須。後日、オンライン配信予定。

01 | アーツマネジメントの基礎知識 11/7 (土) 18:30 ~ 20:00

アーツマネジメントの定義及び歴史／アートプロジェクト、展覧会及び舞台公演の事業模造

02 | 文化政策の歴史と最新動向 11/14 (土) 18:30 ~ 20:00

文化政策の歴史／わが国における文化関連法及び主要な政策

03 | 文化芸術と地域社会 11/28 (土) 18:30 ~ 20:00

文化芸術と社会包摂（ソーシャルインクルージョン）／文化の産業化とクールジャパン政策／文化観光の取り組み

杉浦 幹男 クリエイティブ・ポート高松 プログラムディレクター



《略歴》東京藝術大学美術学部芸術学科卒業、大阪市立大学大学院創造都市研究科修了。株式会社三和総合研究所（現、三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング株式会社）主任研究員、映像産業振興機構（VIPO）京都事務所長等を経て、2016年3月まで沖縄アーツカウンシルプログラムディレクターを務める。2017年9月、アーツカウンシル新潟設立とともに、プログラムディレクターに就任。その後も全国各地のアーツカウンシル設立および運営に携わり、2025年4月より現職。おかやま文化芸術アソシエイツ アドバイザー、（公財）鳥取県文化振興財団アドバイザースタッフ、実践女子大学非常勤講師。

PROGRAM 04-07

地域における持続可能な文化芸術プロジェクト

アーツマネジメント基礎を踏まえ、文化芸術の各分野における、地域での取り組みや地域社会の課題解決に貢献しているキーパーソンをゲストに迎え、地域における持続可能な取り組みや文化芸術プロジェクトのあり方について学びます。

04 | 現代アート 12/5 (土) 15:00 ~ 16:30

山出 淳也 アーティスト、アート・プロデューサー



2005年にNPO法人BEPPU PROJECTを主宰し、別府市の地域活性化に貢献。芸術祭『混浴温泉世界』、『国東半島芸術祭』、『in BEPPU』のほか、空き店舗活用事業「platform」、市民文化祭「ベップ・アート・マンス」、クリエイターとのマッチングによる企業支援など、多様な事業を展開してきた実践から、コミュニティ・ビジネスの立ち上げ方、続け方についてご紹介いただきます。《略歴》アーティストとして、MoMA・PS1のインターナショナル・スタジオ・プログラムに参加（2000～01年）、文化庁在外研修員としてパリに滞在（02～04年）、国内外の展覧会に参加。05年にBEPPU PROJECTを設立。以降、企画・実施した1,000を超えるプロジェクトのほぼ全てに関わる。芸術祭のプロデュースをはじめ、地域・企業の課題解決に資する取り組みを数多く手がける。22年3月、BEPPU PROJECT代表を退任。同年、Yamaide Art Office 株式会社を設立。08年、芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞（芸術振興部門）。

05 | 音楽 12/26 (土) 15:00 ~ 16:30

近年全国各地で開催されている音楽ワークショップを“仕組み化”し、全国で展開することにより、ソーシャルインクルージョンにつながる社会解決型ビジネスにつなげるとともに、音楽大学卒業生の雇用機会の創出にも展望を拓いています。「おとみっく」が展開する音楽ビジネスの新しいフェーズの取り組みについて、ご紹介いただきます。

一般社団法人 IROHAMO

音楽ワークショップ・アーティスト団体「おとみっく」を母体に、2024年に一般社団法人IROHAMOを設立。これまでに全国各地で約500公演を実施。0歳から大人まで3万人を超える多様な人々を対象に、参加型のコンサートや音楽ワークショップを実施してきた。文化庁ユニバーサル公演事業をはじめ、インクルーシブなプログラムを多数プロデュースしている。また文化施設や行政共にアーティスト研修事業も展開している。



坂本 夏樹 代表理事

《略歴》アートと社会の接点に立ち、年齢・背景など様々な垣根を越えた参加型の音楽プログラムを企画・プロデュース・実践するマルチなアーティスト。秋田県出身、東京音楽大学大学院修了。首都圏を中心に多くのアート教育プログラムにも携わっている。また東京音楽大学講師として、音楽ワークショップやアートマネジメントの授業を担当。東京文化会館ワークショップ・リーダー。

©Tomoko Hidaki



鈴木 智之 アソシエイト・マネージャー

《略歴》音楽分野を中心に活動するアーツ・マネジメント制作者。三重県文化会館（2012～2021年）では音楽事業係長として、在京オーケストラの地域拠点事業やプロデュース事業、普及啓発事業を担当。2021年よりフリーランスとして活動し、2023年から音楽ワークショップアーティスト「おとみっく」に参画。アウトリーチや音楽ワークショップの制作を行うほか、いわきアリオス主催「アウトリーチ情報交差点」のファシリテーターなどを務める。

06 | 演劇 1/16 (土) 15:00 ~ 16:30

永山 智行 劇作家、演出家、劇団こふく劇場代表



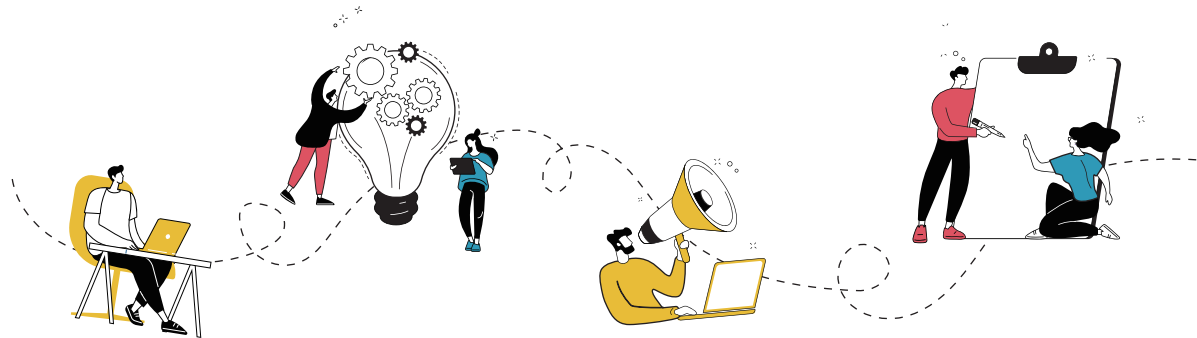
宮崎県・三股町立文化会館をフランチャイズとする劇団こふく劇場の取り組みから、「地方で頑張る」ではなく地域だからこそ成立する制作体制をデザインし、全国各地との共同制作にも取り組むことで、地方発の演劇活動を「単発の話題」ではなく「持続する仕組み」として実装する取り組みについてご紹介いただきます。《略歴》劇作家、演出家。宮崎県の三股町立文化会館をフランチャイズとする劇団こふく劇場代表。2001年『so bad year』でAAF戯曲賞受賞。06年から約10年間、公益財団法人宮崎県立芸術劇場演劇ディレクターも務め、九州の俳優を集めてのプロデュース公演「演劇・時空の旅シリーズ」を企画・演出した。22年、永山智行戯曲集『ロマンス / いきたひと / 猫を探す』が而立書房より出版。

07 | 工芸 1/23 (土) 15:00 ~ 16:30

鈴木 修司 ゆいまーる沖縄(株) 代表取締役社長



社名の「ゆいまーる」は、沖縄の言葉で「労働交換」や「相互補助」という意味。同社は、やちむん（焼物）や琉球ガラス、染織など、沖縄の工芸品をメイン商材として取り扱い、卸売と小売り事業を展開するとともに、工芸生産者の課題解決事業についても注力しており、創業理念「琉球の自立」に寄与する取り組みについてご紹介いただきます。《略歴》1988年、ゆいまーる沖縄にアルバイトとして採用される。2010年、同社代表取締役社長に就任。11年より沖縄工芸品のブランド構築をスタート。これまでに琉球ガラス、焼物等の工芸ブランド、沖縄県立芸術大学とコラボレーションしたデザインブランドを立上げる。工房運営セミナーの開催や沖縄県の商品開発事業、織物職人の人材育成プロジェクトの運営など沖縄工芸業界の業界活性化に向けた取組みなどに取り組んでいる。



PROGRAM 08-11

文化芸術を活用した ソーシャルアントレプレナーの実践事例

文化芸術を活用し、地域社会の課題解決に貢献するビジネスを起業し、持続可能な“生業”にしていくビジネスモデルを実践しているキーパーソンをゲストに迎え、公益性を担保しながら収益化していく秘訣を学びます。

08 | 自然 × ローカルベンチャー 1/30 (土) 15:00 ~ 16:30

牧 大介 株式会社エーゼログループ 代表取締役 CEO



人口わずか約1,300人の岡山県・西粟倉村を拠点に、「未来の里山をつくる」をビジョンに掲げ、木材加工・農業・ジビエ・養蜂・関係人口創出・企業研修・福祉・不動産建築・コンサルティング等、様々な事業に取り組んでいます。「新しいチャレンジが増え続ける地域づくり」を軸とし、自然資本を活かし、自然と共生する事業づくりの具体的な取り組みについてご紹介いただきます。《略歴》京都大学大学院農学研究科卒業後、民間のシンクタンクを経て2005年に株式会社アマタ持続可能経済研究所の設立に参画。森林・林業、山村に関わる新規事業の企画・プロデュースなどを各地で手掛けてきた。06年から地域再生マネージャーとして西粟倉村に赴任。09年に岡山県西粟倉村で（株）西粟倉・森の学校（エーゼログループの前身）を設立し代表に就任。著書『ローカルベンチャー 地域にはビジネスの可能性があふれている』。

09 | 障がい者福祉 × デザイン 2/6 (土) 15:00 ~ 16:30

ライラ・カセム Laila Cassim 一般社団法人シブヤフォント クリエイティブディレクター



渋谷でくらし・はたらく障がいのある人と、桑沢デザイン研究所の学生が共に創り上げた文字や絵柄・イラストを、フォントやパターンとしてデザインしたパブリックデータ「シブヤフォント」。障害福祉の現場の創作活動とデザインを繋げ、協働創作を通じて商品開発や様々なプロジェクトの企画・運営。障がいのある人々の経済自立・社会参加とデザイナーや企業の社会意識を促す様々な活動やそのプロセスづくりについて、ご紹介いただきます。《略歴》日本生まれ、世界育ちのイギリス人グラフィックデザイナー。2016年、東京藝術大学大学院デザイン科博士課程修了。障害福祉の現場の創作活動とデザインを繋げ、協働創作を通して商品開発や様々なプロジェクト企画・運営。障がいのある人々や支援現場の経済自立・社会参加とデザイナーや企業の社会意識を促す活動をしている。その象徴でもある「シブヤフォント」ではクリエイティブディレクターを務め、グッドデザイン賞、内閣府オープンイノベーション大賞、台湾のGolden Pint Design 賞でベストデザイン賞など国内外多数の賞を受賞。24年度まで東京大学特任研究員、桑沢デザイン研究所の非常勤講師なども務めた。23年4月からは奈良女子大学工学部の特任准教授に就任。24年より滋賀と東京の2拠点生活をしている。www.shibuyafont.jp

10 | 福祉 × クリエイティブ 2/13 (土) 15:00 ~ 16:30

アダチ ヤスシ TECTEC 取締役（福祉 × クリエイティブ）、エンジンズ取締役（デジタルエンタメ）、キッズプロジェクト取締役（教育知育DX）



エンターテインメント業界から福祉の現場へ越境し、心身の特性や課題を抱える人たちに、デザインやゲーム、ものづくりなど、クリエイティブ業界への入口と実践の機会をつくっています。企業やクリエイターと福祉の現場をつなぎ、業界のリアルに触れる体験を通じて、一人ひとりの感性や得意を次のキャリアへ。エンタメから社会へ働きかけ、社会の見方や当事者自身の可能性を広げる取り組みです。《略歴》ビデオゲームプロデューサー／ビジネスプランナー。多数のゲーム事業でプロデューサー、ディレクター、プランナーを務め、各種受賞歴多数。「サムライスピリッツ」「星のカービィ」シリーズなどを手がける。ビデオゲーム開発の最前線で活動しながら、エンタメ業界の人材、企業、技術、現場とのネットワークを教育や福祉へ繋げるためにともかく日々を送る。

11 | 商店街活性化 × デザイン 2/20 (土) 15:00 ~ 16:30

迫 一成 hickory03travelers 代表、上古町商店街理事長



新潟市内の上古町商店街に店舗と複合施設を置き、「日常を楽しもう」というコンセプトのもと、様々な物やコトのクリエイションを行う集団hickory03travelersを率い、商店街理事長としてまちづくりにも取り組みや続けていくビジネスモデルをご紹介いただきます。《略歴》新潟大学人文学部卒業。2001年にクリエイト集団hickory03travelers結成。上古町商店街にショップと複合施設と作業場の活動拠点を置き「地域に根差したデザイン活動」を実践。グッドデザイン賞2015受賞。現場感覚と経験を大事にし、イラスト、グラフィックデザイン、商品開発を軸にデザインと社会を結ぶ活動を継続。地域産業との連携、近隣店舗とのコラボ商品も多数。全国の地域で活動するデザイナーと学ぶコミュニティスクールLive design schoolでリードデザイナーとしても活動。長岡造形大学デザイン学科非常勤講師。